

# 令和 7 年度 事業報告書 中京いきいき市民活動センター

【指定管理者：特定非営利活動法人 あかしやふれあいネットワーク】

## 1 施設運営業務

### (1) 職員体制

センター長 1 名、職員 12 名（常勤 2 名非常勤 10 名）

#### 【人材育成の取組】

・月に 1 度のミーティングは必ず行い、業務連絡や日々の業務での改善について意見交換をして、従事者全体が内容や状況を共有し、業務が円滑に進み、来館者からの疑問に対する回答が的確になる事や案内等にも話し合います。広報については、担当者とセンターの周知や事業・イベント広報についても細部まで話し合う事で、適切な広報に繋がっています。

### (2) 貸館等

#### ア 利用件数

(月別)

| 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|
| 144 | 153 | 157 | 151 | 142 | 168 | 187  | 174  | 152  | 153 | 169 | 157 |

(年間)

1,907 件（前年度比 107%）

#### イ 利用状況

○ 年間での利用状況について、傾向などを記載してください。

- ・前年度より利用件数も増えています。新規の利用団体や個人での利用も増えています。新規の利用者には当センターを知ったきっかけを必ず伺うようにする中で、HP や SNS を見てと言われます。時代の風潮なのか、SNS はチラシとは違い、良い意味で広範囲に周知することが出来て、広報にはとても効果的だと実感しています。
- ・定期的に利用されている団体やサークルは定着して利用されており、3 か月前の予約は欠かさず申請に来られます。定着して利用していただいている団体やサークルが利用されなくなる事はほぼ無いので、利用していただきやすい環境や場所の提供ができていないかと考えています。
- ・仮予約については浸透していて、定期的に利用される団体や個人の方もホームページやメール・SNS を利用して問い合わせがあり、とても利用しやすくなった。との声も多いです。日にちが近い場合や、当日などの仮予約については、電話でも問い合わせがあるので、短時間での空室状況も伝えることが出来て、利用状況の増加に繋がっています。遠方、他府県からの問い合わせや申込みもあります。ある沖縄の大学舞踊サークルが京都で出演する予定で、前日リハーサルに利用されたこともありました。

○ 課題や改善が見られた部分があれば記載してください。

- ・冷暖房器具の改修工事に伴い、工事中の暖房器具が使用できない期間についてはライトハウスからストーブを 9 台借用し、当センターでも 2 台購入して対応しました。暖房器具が使用出来ない期間に利用される団体や個人の方には事前に伝えていたので、特にトラブルや苦情も無く利用してもらう事ができました。
- ・料理室の利用団体も少しずつ増えている中で、調理器具や食器の購入も行い、利用者からは、このような施設があって良かった、調理器具なども揃っていて利用しやすいとの声も聞けました。

#### ウ 利用促進に向けた取組

○ センターで取り組まれたことを記載してください。

- ・昨年度から当センター担当者が制作している「いきいき通信」の今年度はページ数も増やし内容も濃くし、昨年度よりアップグレードしました。見た目のイメージも変えて、今年度としてインパクトのあるいきいき通信が完成しています。この「いきいき通信」は利用団体からも自分たちの活動の広報に繋がることを喜ばれ、新規利用者や当センターの PR としてとても分かりやすく、役立っていると自負しています。併せて、時々、SNS で事業やイベントの広報をする中で、当センターに興味を持たれて問い合わせがあり、その後の利用に繋がることもあります。
- ・来館者には常に会話や声掛けを心掛けて、交流する事で利用の内容や活動内容を知ることができ、新たな備品導入や利用しやすい環境づくりができています。多種多様な利用や活動をサポートする事で、利用促進に繋がっています。
- ・新規利用者には、利用開始時間前に活動されている場面や状況を SNS に載せて広報として使用したい旨を伝えて、活動の様子を見学し、インタビューをさせてもらい、その活動を発信することやセンターの活用例を外部にもわかりやすく示しています。多くの団体は快く受け入れて下さり、SNS に掲載する事も是非とも掲載してほしい。と言っていただく事が多いです。そこには、市民活動に繋がり当センターの利用促進にも繋がると考えています。

#### エ その他

○ サロンについて、利用状況や前年度と比較した増減の分析等を記載してください。

- ・利用の増減については、前年度比 90% となっていますが、利用人数だけではなく利用時の満足度は高いと考えています。利用者の思いやニーズに応えられるよう話し、イベントの内容を考えて開催するなどしています。来年度は家庭や学校ではない、居場所づくりとして小学生から高校生を対象に大学生ボランティアと協働しながら進めていきます。サロンが新たな居場所づくりの場となるように活用したいと考えています。
- ・サロンでの活動状況を SNS 等で知り、協働して取り組みたい方の問い合わせもあり、活動のスタートアップとして多世代交流事業を活用して頂いています。

### (3) 情報発信等

#### ア 取組実績

○ SNS をはじめとする広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例について記載してください。

- ・告知チラシは、一目で「どんなイベントなのか」「イベントの楽しさ」が伝わるデザインを意識して制作を行いました。必要情報を見やすく整理し、リード文や写真などで興味を持ってもらえるよう工夫し、初めての方でも気軽に参加しやすい、親しみやすい雰囲気づくりを心掛けました。
- ・HP は毎月のイベント情報の更新を継続し、利用者の方へ分かりやすく情報発信を行いました。新たに助成金に関するページを作成し、助成金についての紹介や、YouTube チャンネルへのリンクを掲載するなど、情報発信の充実を図りました。そのほか、各イベントやお知らせなども随時更新を行い、利用者の方が必要な情報を確認しやすい HP 運営に努めました。

- ・いきいき通信はページ数を P8 から P12 へ増やし、中京いきセンで開催しているイベント情報をより多く掲載しました。イベントの活動報告や会議室の利用団体の紹介などを充実させ、センターでどんな取り組みが行われているのか、利用例など具体的に伝わる内容を意識しました。また、スタッフコメントや学生ボランティアの感想を掲載し、利用者の方に安心感や親しみを持ってもらえるよう工夫しました。その他、会議室の利用方法について、「初めての方には分かりにくい」ということも踏まえ、予約方法や利用の流れをできるだけ分かりやすく掲載し、より気軽に会議室を利用してもらえるよう情報を整理しました。
  - ・インスタグラムの投稿について、イベント直前の告知にストーリーズ投稿やリール動画を活用し、イベントレポートに写真だけでなく動画を利用しイベントの雰囲気が伝わるようレポートし工夫しました。
  - ・イベントの SNS 発信（画像編集・動画編集）は Instagram・LINE・YouTube ショート等を活用し、幅広い世代に向けイベントの魅力が伝わる内容にすることで、参加者増加やセンターの認知向上に繋がりました。
- センターの認知度向上だけでなく、市民活動に関わる様々な情報を工夫して周知された取組があれば記載してください。
- ・6月7日にみやこめっせで開催された「オーガニック EXPO」にスタッフ数名参加し、当センターの事業で活かせるヒント集めに行き、SDG s に繋げ事業を行いました。ココナッツシュガーを使った、米粉のココナッツマフィンを子ども達と作り、綿の実の種を植え、栽培し、育った綿を使いクリスマスリース作りとして SDG s 事業を行いました。
  - ・当センター近隣にある三条商店街があり、商店街活性のために商店街関係者だけではなく、大学生団体や市民活動を行っている団体とも連携し、毎年七夕祭りを開催されており、その催しに今年度も参加し、当センターの PR を行うとともにオリジナルうちわやパンフレットを配布し、センターの周知を行いました。
  - ・今年度も学生ボランティアを募集し、各大学の協力で電子掲示板やチラシを置いて頂き、様々な学校から参加してくれました。花園大学はゼミの時間にボランティアの理論と実践として説明に出向き、学生達を受け入れました。

#### イ 取組の効果

- アの取組により効果が見られた事例を記載してください（団体の立ち上げや事業の実施につながった など）。
- ・食を通じた SDG s やオーガニックを伝えるワークショップになり、参加者や保護者など、関心が多く、意味のあるイベントになりました。
  - ・HP や SNS、いきいき通信を改善したことで、登録者数が増加したことや事業やイベントの申込み、事業を一緒に行いたい活動団体、活動を広めたい相談など、広報から当センターに興味や理解を持って繋がられることが増えています。
  - ・当センターの広報（SNS やいきいき通信）を見られた方の感想は見やすいし、様々な事されていて見るのが楽しみと好評で、時には活動の広報の相談など受けました。
  - ・大学へのボランティア募集は、毎年行っていることで、随時、希望者からの問い合わせがあり、LINE での誘導で、繋がり、活動へ協働しています。

#### (4) 管理運営

- 防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務、保安警備業務、植栽等保全業務の実績について、代表的なものを記載し、最後に「等を実施」と記載してください。
- ・ 防火管理者の選定（中京消防署にも消防計画を提出済）、建築物の保守管理(日常点検等)、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務（日々・空調）、保安警備業務、植栽等保全業務等を実施しました。

#### (5) その他

- 「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」で実施したものがあれば、その内容を記載してください。
- ・ 関係機関や繋がりのある団体の為になる講演やワークショップにも、スタッフ自ら参加し、情報共有や交流を行い、施設管理の向上に向け新たな視野を広めています。中には中京区役所の屋上で活動されている「中京・花と緑の会」と交流する機会があり、センター内の花壇のアドバイスをもらい、植栽を行いました。
- ・ 従事者の視野を広げるために、いきセンに届く広報や関係団体等のイベントや講演に積極的に参加し、個々の知識を高め、業務に取り入れられ内容は、会議等で共有し、質を高めています。(SDGsを意識した京都町屋の世界倉庫でのワークショップ・醍醐いきセン「コミュニティデザインのワークショップ」・京都府社会福祉協議会「子どもの居場所づくり基礎講座」など)
- ・ 独自の意見箱を設置し、気軽に来館者の意見を取り入れられるよう努めています。その意見の中で、改善すべき点がある事項についてはミーティング等で話し合い、スタッフがその内容(備品の購入や不備の確認)を共有し少しでも改善できるように心掛けています。
- ・ 周辺学区や周辺で活動されている市民活動団体や福祉施設の方とは常に交流を持ち、イベントや交流会・学習会等に参加し、当センターと共催して事業やイベントを行い、お互いの活動内容を知ることで今後に繋がるよう努めました。
- ・ 中京区社会福祉協議会や高齢サポート・西ノ京は、定期的な交流会や意見交換会には参加し、情報交換や連携を持っています。

## 2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

### 【事業名】SDGs 事業（活性化事業）

#### 事業の概要

- 1 開催日時： ①7/26 エコバックづくりワークショップ(京都大学)  
②7/26・10/25・1/31 スマホの相談会ワークショップ（大学生）  
③6/28・8/30・11/29 ものづくりイベント(京都工芸繊維大学の学生)  
④7/19 シーグラス金継ぎ体験  
⑤5/17・9/6・10/4・12/20 食育ワークショップ（学生団体ボーノ）  
⑥7/26 風鈴づくりと流しそうめん（花園大学・先端科学大学 学生ボランティア）  
⑦7/12 ネットトラブル防止セミナー（京都府警）  
⑧1/24 介護に備えるワークショップ  
（高齢者サポート西ノ京・シニアケア美容の小寺氏）  
⑨12/6 綿の実クリスマスリースづくり  
⑩9/27 いきセンフェスティバル
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室・料理室・サロン
- 3 参加人数： ①15名 ②7名 9名 11名 ③7名 12名 5名 ④25名  
⑤8名 9名 11名 13名 ⑥25名 ⑦10名 ⑧10名 ⑨12名  
⑩55名 計 244名
- 4 協力団体等： 京都大学エコ〜るど京都学生・京都先端科学大学学生・花園大学学生・  
NPO 法人ディープピープル・学生団体ボーノ・京都工芸繊維大学の学生・  
学生ボランティア JVO・高齢者サポート西ノ京・市民活動団体他
- 5 予算： 2,827,500 円 / 決算： 2,885,120 円

#### 1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

地域住民，市民活動団体，大学生と連携し取り組む SDG s プロジェクトに取り組みました。

いきいき市民活動センターから発信し，人々への SDG s 意識を高め，自分のため将来のためという重要なことを心に響かせて，活動団体と協働で取組みを企画し，地域の活動の支援と SDGs 参加者の意識を高める目的で開催しました。協働する団体は，独自の活動を活かし，得意なことやアイディアを引き出し，センターは，場所・広報・事業のまとめ役を主に行いました。

- ①京都大学の学生主体で，環境問題をテーマにエコバックづくりを行い，子ども達の意見を聞きながら自分事して考えるワークショップを開催しました。万博にちなみ，みやくみやくデザインのバックも見られました。
- ②現在社会を生きやすくするために，大学生主体で日々のちょっとした悩みを解決できるよう，「スマホのプチお悩み相談会」のワークショップを3回開催しました。
- ③京都工芸繊維大学の学生の企画による，科学に関連する内容のワークショップを3回開催しました。
- ④子どもや親子対象に，海のごみシーグラス，シー陶器を使って，金継ぎ体験を行いました。
- ⑤学生団体ボーノの企画による，食についてのワークショップを4回開催し，子ども達に食について，伝えました。

- ⑥学生の意見も取り入れ、風鈴づくりと流しそうめんを行いました。地域の竹で作った流しそうめんをサロンの外で行い、風情ある体験ができました。
- ⑦京都府警のネット安心アドバイザーをお招きし、ネットトラブルから身を守るためのワークショップを開催しました。1人1台、タブレットを使いネットに潜む罠について実践的に学びました。
- ⑧高齢者サポート西ノ京とシニアケア美容の小寺氏をお招きし、介護や認知症の知識や、いざ目の前に起きた時の予備知識やサービスの使い方、経験者から経験談など、身近で役立つワークショップを開催しました。
- ⑨中京いきセン敷地内にてオーガニックEXPOで購入した綿の実を育て、その実を使った、クリスマスリースを作るワークショップを開催しました。
- ⑩SDGs事業に参加された団体や中京いきセンを行き交う団体で、いきセンフェスティバルを開催しました。上記のワークショップ等でできた作品の展示も行いました。

## 2 準備段階での工夫

- ・今年度も、継続して協働したい団体と新たに一緒にやってみたいという団体に恵まれ、メールや電話で、事前の打ち合わせとスケジュールを小まめに行ない、参加者が楽しめる準備や配慮を心がけ開催に向けました。
- ・市民に興味を持たせ参加してもらえるよう、それぞれの団体の特性を前面に打ち出せるよう、広報やチラシ等で示す工夫をしました。
- ・大学生ボランティアも学校に配布したり、学校のサイトに載せてもらったりして他方からの学生が協力してくれ、事前に研修会を行い、学生が気軽に参加できるようにしました。学生はLINEへ繋がってもらい、LINEグループで連絡や日程調整を行い、スムーズに取り組みました。学生とのやり取りの中で、意見も取り入れました。
- ・参加された方とは、アンケートだけでなく、気さくに話しかけ、興味や感想など、意見も聞くよう、スタッフが意識し、行いました。また、パンフレットや事業のチラシを置き、質問に随時答えるよう担当者が張り付けました。来場者の中には、利用したい声も聞け、LINE登録などの誘導も心掛けました。

## 3 事業実施による効果・達成度

### (1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
- ・幅広い層の方に、自分のため将来のためという重要なことを心に響かせて、参加団体との連携を図ります。
- ・協働する団体と情報共有、連携することで、開催する目的ができ、具体的に伝えることが見え、質の良い高い取り組みが期待できます。
- ・参加人数の増加や協働による活動、多種多様なアイディアの取り入れを目的とし、参加者団体が主体の事業となり、自主性を引き出します。
- ・それぞれの意見を取り入れ、地域住民に伝え人々の意識改革と自然にSDGs（環境）の達成に向けて一歩踏み出す取り組みとなり、あらゆるひとを巻き込むことで、将来性のあるまちづくりを目指します。

- ・いきセンフェスティバルでは、当センター利用団体だけでなく、他方面で興味のある方を募り、申込みがあった団体にも参加してもらえ、参加者からも感動の涙や声を頂き、出演者の励みになりました。

## (2) 事業実施による目標の達成度

- (1) の達成度について自己分析し、記載してください。
- ・子どもから高齢者まで幅広い層の方に参加してもらえる事業となりました。
- ・市民活動団体、大学生、学生団体、の日頃の活動を活かして SDGs に繋げる内容の事業となり参加者の満足へ繋がりました。参加者からの反応も良く、継続して行って欲しい声や要望などが聞けました。
- ・大学生は、それぞれの学生の考えや行動を活かすため、上手く誘導することで、徐々に意見や行動が芽生え、将来の担い手の支援ができました。その後も、他の事業に参加される学生もおり、回数を重ねるごとに成長が感じられました。
- ・参加者の主体性を引き出すために、協働団体と連携し計画・実行できました。
- ・イベントは、継続して欲しい声や参加したい声、年に1回を2回にして欲しい声が聞けています。様々な団体が自主性を持って交流し合え、センターとしてはサポート体制で取り組みました。

## 4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
- ・まだまだ SDGs へ関心と材料があると思うので、中京いきセンを拠点に活動団体と市民を繋げる内容を模索し SDGs の知識と課題解決に繋げる事業を計画します。そのために、常に情報を取り込み、活動団体と連携をもって進めていきます。
- ・繋がった団体や学生は、継続して連携し、協働で行い取り組む内容を計画していきます。
- ・近年繋がっている、当センターを理解してくれている大学とは、連携し、ボランティアを募っていきます。
- ・また、SDGs については、従事者が常に外部の情報にアンテナを張り、参加できるイベント等に自ら参加し、自身の知識や見聞をアップデートします。



## 【事業名】多世代交流事業（活性化事業）

### 事業の概要

- 1 開催日時： ①「いきいき憩いの場」 毎週水曜日 10:30～12:00  
②「ふれあい基地」 毎週土曜日 10:30～12:00  
③「ふれあい喫茶」 毎週土曜日 13:00～14:30
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数： ①371名（46回） ②350名（42回） ③393名（47回）
- 4 協力団体等： ひなぎくヨガ・書道サークル・フラワーアレンジメントサークル・水彩画サークル・スローエアロビクスサークル・金継ぎ体験・折り紙サークル・京都工芸大学ぽっけ・京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生・光華女子大学学生・学生団体 JVO 他
- 5 予算： 1,929,500 円 / 決算：1,985,829 円

### 1 事業内容

#### ○ 事業の内容を具体的に記載してください。

地域で抱える問題も多様化していることからお互いを理解していく交流「多世代交流」できる事業を行いました。孤立しがちな環境で暮らす子育て世帯や高齢者、核家族化や地方から来ている大学生など、家族構成や問題は様々で、外部のコミュニケーションを取ることでお互いを支え合う活動に繋がりました。リタイヤした高齢者の知恵や大学生の新しい発想や行動力を生かした事業に、より安心して子育てできる環境づくりを展開します。そこで感じる高齢者への生きるための目的要素や個人では得られない多世代から得る情報によって双方にメリットを起こす取り組みを狙いにします。3つの対象者に分け取組みを実施します。どの取り組みも団体と協働で活動し、始めようとする団体のスタートアップのサポートや活動団体の活動の励み、活性化に繋がります。

①「中京いきいき憩いの場」 乳幼児と保護者×高齢者 協力は子育てサークル・ひなぎくヨガ・フラワーアレンジメントサークルなど。

内容は昔の懐かしい歌や手遊び・紙しばいや読み聞かせ・ヨガ体験・ブリザーブドフラワー体験・書道体験・レコード鑑賞など。

②「中京ふれあい基地」 小・中学生×大学生 協力は・京都工芸大学ぽっけ・京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生・光華女子大学学生・学生団体 JVO。

内容は科学体験や工作、体を動かすレクリエーション、料理体験、お祭りを模した季節のイベント・太鼓体験・金継ぎ体験など。

③「中京ふれあい喫茶」 高齢者×大学生 協力は・京都工芸大学ぽっけ・京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生・光華女子大学学生・学生団体 JVO。

内容は麻雀やボードゲーム・カラオケ体験・スマホの触り方・健康体操・クイズで脳トレ・歌や音楽鑑賞・ものづくり体験・レコード鑑賞など。

### 2 準備段階での工夫

- ・スタッフと協力団体が定期的に、会議をして、各年齢層が来て楽しめる内容や学生が自然に入れるきっかけなど、それぞれに問題点を確認しながら事業に取り組みました。特に団体の特徴をチラシに明記し、参加者に細かく伝わるよう心掛けました。例えば、手話が可能な方がおり、手話や筆談での参加可能を広報しました。

- ・活動は写真と動画で、わかりやすくし、チラシ、HPやSNSに毎週、情報公開し、繋がりのある方からは、その情報を見て申込みや問い合わせがありました。また、興味のある方は繋がってもらえたら詳しくわかりますと誘導し、そこから申込みされていました。
- ・大学生ボランティアは随時募集し、見学や体験も行い、年間で途中参加もありました。チラシ等は大学にお願いし、配布し、電子掲示板に載せて頂いたりしました。グループLINEをつくり、連絡や周知をやりとりしました。昨年に続き、スムーズにやり取りでき、学生の意見も取り入れ学生主体の企画も実施しました。事業の後は、大学生からも感想や思いを聞き、今後に繋げていきます。
- ・毎週あるので、外にはコルクボード、館内にはホワイトボードにスケジュールを示し、来場者にわかるように、予定表やチラシでわかるようにしていました。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### (1) 当初の事業効果, 目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
  - ・多世代で関わる中でコミュニケーション力やふるまいの向上を図ります。地域の大人と一緒になって子どもの豊かな体験（人との関わりや伝統文化の行事体験など）を生み出し、活動することの価値に気づき、成長過程にある子どもたちにはとても大切な経験となり、地域で理解も深まり日常生活で欠けている部分を補うことを目標にします。
  - ・共働き家庭や少子化による兄弟の減少などの傾向のある小・中学生に必要なコミュニケーションと人の繋がりがもてる居場所づくりを目指します。大学生は次世代を担う人材の育成を目的とします。
  - ・高齢者の「孤立化」や「無縁化」、「貧困化」などが深刻化するなか、少しでも多くの高齢者が社会的なつながりをもち、心豊かな生活を送れるよう支援することと、大学生に見られる、異世代間の交流が少なく、社会性や人間関係の乏しさなどの問題解決を目的とします。お互いの足りない部分が補われ、この取り組みでしか得られない機会となり交流の輪に繋がります。

#### (2) 事業実施による目標の達成度

- (1)の達成度について自己分析し、記載してください。
  - ・新たな活動団体の支援や貸館への誘導ができました。
  - ・学生ボランティアが運営にかかわることで、参加者とスタッフの距離が近くなり、会場全体に親しみやすい雰囲気が生まれていました。
  - ・参加者同士の顔なじみが増え、地域コミュニティの活性化に繋がりました。
  - ・乳幼児と保護者の間に高齢の方の温かい見守りや声の掛け合いが、子ども達も自然になじめる雰囲気となり、保護者も安心して参加され、経験豊かな話を興味深く聞かれ、まさに多世代交流となりました。
  - ・学生へSNS用画像制作を一緒に取り組んでもらい、完成したものをSNSにて発信し、関わってくれたことも紹介することで、地域活動の周知に繋げることができ、その結果、SNSの再生回数増加にも繋がり、学生にとっても今後のプレゼン資料作成など社会で活かせる経験となりました。
  - ・大学生が主体となって進めることで、小・中学生と大学生の積極的なやり取りが増え、関係性を築きやすくなっていると考えます。センタースタッフともコミュニケーションの機会が増えたことから気軽に話せる関係性ができ、談笑や相談、報告などをフラットにできる環境を維持できています。大学生にとって、さらなる学びや地域との関わりにつなげてもらっています。

- ・どの取り組みも、市民活動団体が快く参加され、意欲もって企画され、活発な動きが見られました。また、この事業をきっかけに活動を始めた団体は、その後、センター会議室を定期的に借りて活動されています。

#### 4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
- ・様々な世代の方との交流で、それぞれの良さが入り交り、他では体験できない事業なので、協力団体・参加者・大学生、それぞれの意見を取り入れ、今後も企画します。また、新しく繋がる個人や団体も大切にし、人が交流し合える仕組みを継続します。広報では、HP と SNS は継続しつつ、新しい手段で取り組めるよう検討します。
- ・この事業に参加や協働できたことをきっかけに、新しい活動やより良い活動へ繋げられるよう、新しい情報を取り入れ企画・運営していきます。
- ・また大学生には、将来、社会で役立つ一歩をサポートできるよう努めます。

※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

## 【事業名】市民活動応援事業（活性化事業）

### 事業の概要

- 1 開催日時： ①5/12 9/22 1/14 18:00～20:00  
②5/31 10:30～12:00 ・ 9/6 10:30～12:30  
12/25 10:00～12:00 ・ 1/17 10:00～12:00  
③3/10 18:00～20:00
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室
- 3 参加人数： ①18名 15名 ②28名 ・ 19名 ・ 16名 ・ 10名 ③17名
- 4 協力団体等： 音楽活動されている姉妹 ・ 藍染サークル・ 料理サークル ・  
京都市食育指導員 ・ 学生ボランティア
- 5 予算： 88,000 円 / 決算：160,600 円

### 1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

市民活動団体やこれから始めようとする人と、組織を構成し互いの活動を応援する事業を行いました。日常の不安や問題・成功例などを話しまとめ、そこから問題を解決できるワークショップやイベントを行いました。

①市民活動相談会として意見交換を行いました。

②意見交換から出た案やそれぞれ抱える問題の解決に繋げるイベントを企画、開催しました。

歌と三味線コンサート ・ 藍染Tシャツづくり体験 ・ うどん打ち体験 ・  
サラダコンテスト1位のサラダづくり

③イベントで協働した団体同士で個々の活動の近況会を行い、双方の問題点や良いところを話し合いました。

### 2 準備段階での工夫

- ・①の相談会で、グループに分かれ、個々で自由に意見交換できるよう形式で進めました。お互いの問題を知ること、それぞれの活動を知る機会になりました。イベントに繋げるためにも双方の活動を知り、それぞれが意見を出し合い、協働で取り組める企画へ繋がられました。
- ・イベントでは、それぞれの得意分野を発揮できるよう企画、センターから助言しながら、進めました。
- ・ワークショップに参加される子育て世代の方が、子供を連れて参加できるように、サポートできる場所と子育てサークルの方にも協力頂き、サポートしました。
- ・様々な意見交換をする中で、オリジナルTシャツの藍染体験や、団体の知り合いの「うどん屋さん」にご協力頂き、うどん打ち体験、広範囲の意見を募り、サラダコンテストを行い、1位になったレシピを作るという面白い企画も生まれました。サラダづくりには、京都市の食育指導員にご協力頂き、一緒にレシピを選んだり、当日、一食クッキングを行いました。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### (1) 当初の事業効果, 目標等

- 事業を実施することで期待される効果や, 目標としたことなどを記載してください。
  - ・市民活動や個人の方で、身近な困りごとを話す機会を持つことで、他の人の考えを聞く機会ができ視野が広がり、活動や行動の問題解決につながります。
  - ・グループディスカッションすることで、それぞれの思いや考えを伝え、みんなの意見で企画に繋げることができます。
  - ・一歩外へ出るきっかけや他人と話すきっかけづくりができます。
  - ・全く違う活動や環境の方の話を聞くことで、今まで気づかなかったことを発見し、見直す機会をもてます。
  - ・問題から企画に繋げ、それぞれが前向きな考えとなり、今後の活動意欲に繋がります。

#### (2) 事業実施による目標の達成度

- (1) の達成度について自己分析し、記載してください。
  - ・グループに分かれての交流会では、それぞれに困りごとを話し合い、問題解決に向け、自主的に意見を言い合えることができ、解決に向けた取り組みとして、イベントとワークショップを計画し実行できました。
  - ・このイベントにより、他団体が知っている補助金の話しや広報の方法、参加できるイベントなど知ることができ、その後、団体間の交流をされています。
  - ・活動団体と他団体をマッチングさせることで、より良い活動にもなり、また活気づき、参加者が賑わうイベントを作ることができました。
  - ・参加団体の主体性を引き出すために、協働団体の得意分野を活かせるイベントに結びました。また企画・運営も団体に任せることで、活動意欲にも繋がられ、今後もイベント等行っていきたいとの声が聞けました。
  - ・様々な団体が自主性を持って交流し合え、センターとしてはサポート体制で取り組みました。

### 4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
  - ・グループディスカッションは重ねるごとに、意見も言いやすく、活発になるので、その形式で行い、センターは団体間のつなぎ役で努めていきます。
  - ・参加された団体とは良い意見交換ができ、協働で取り組める機会が持て、問題解決に向け前進できる事業となりました。
  - ・サラダコンテストは参加者からも面白い意見が多く、内容を変えて再度行っても良いかと思いました。
  - ・団体のサポートができ、参加された方も喜んでおられ、気持ちが前向きになれた感想が聞け、この取り組みは意味のある事業になり、今後も、内容を変え、市民に寄り添い、応援、サポートできる取り組みを企画していきます。
  - ・イベントを行う事で、学生が意欲を発揮していたので、今後も学生の成長に向けた取組みは計画していきます。

## 【事業名】「みんなの文化祭」交流事業（活性化事業）

### 事業の概要

- 1 開催日時： 3月15日（日） 11:00～16:00
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室
- 3 参加人数： 10センター（しみセン・9いきセン）  
出展団体数 ステージの部；16団体  
作品展示の部：24団体  
スタンプラリー数170
- 4 協力団体等： 市民活動総合支援センター・いきいき市民活動センター・  
各センターより出演者、出展者
- 5 予算： 35,000円 / 決算：32,015円

### 1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

いきいき市民活動センター（いきセン）、市民活動総合センター（しみセン）を拠点に活動する団体の活動発表や作品展示の場を提供する文化祭的イベントを開催しました。それぞれのいきセンの催しを、ひと・まち交流館 京都に場所を変え、また広く京都市民を対象として来場者を募ることで、より大きな場所で発表する機会ができ、より広い地域の人に演技や作品を見てもらえる、イベントです。

### 2 準備段階での工夫

- ・ZOOMによる実行委員会を3回、意見交換を行い、それぞれの不安を取り除き、当日がスムーズに進むように進めることができました。
- ・出演者や出展者をよりわかりやすく示すために、事前に各詳細を伝え、プログラムとして、しみセンが取りまとめ、配布できるよう作成されました。
- ・参加された団体が交流や繋がりが持てるよう、各団体の詳細をしみセンが一覧に作成されました。
- ・当日は、各コーナーをスタンプラリーで、均等に回れるよう配慮しました。
- ・いきセン・各団体のアンケートを取ることで、今後の改善対策に繋がりました。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### （1）当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。

- ・出演・出展団体は日常より大きな場所で展示・発表する機会ができ、より広い地域の人に演技や作品を見てもらえる目的です。
- ・参加した各センター（いきセン・しみセン）の出展者同士の交流が生まれることが期待します。
- ・いきセン、しみセンも、互いの交流によりイベント開催のノウハウの交換や学びの機会にもつながります。

(2) 事業実施による目標の達成度

○ (1) の達成度について自己分析し、記載してください。

- ・実行委員会や当日の準備、後片付け等でしみセンと各いきセンの交流につながりました。
- ・各いきセンの団体を知ることができ、知っておくことで、今後の利用者の方から問いにも誘導ができると考えました。
- ・出演・出展することで、利用団体からの喜びや励み、今後の目的にも繋がりました。

4 今後の抱負

○ 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。

- ・まだ他にもたくさんの市民活動団体があるので、活動の後押しができるよう、このような大きなイベントへの誘導をしていきます。
- ・日々のセンター来場者、団体と常に交流を持ち、参加を希望する方への誘導をしていきます。
- ・今後も事前の実行委員会議に参加し、意見交換の上、市民活動の応援ができるよう努めます。

### 3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

#### 1 利用料金の収入実績

令和7年度実績：3, 135, 200円（前年度比108%）

#### 2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

### 4. 施設の利用者満足度の把握

#### 1 利用者満足度の把握状況

##### （1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和7年11月実施

【調査項目】窓口サービス

##### （2）センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

#### 2 利用者満足度把握の結果

##### （1）全センター共通窓口サービス

##### （2）センター独自アンケート

○結果の概要を可能な範囲で記載してください。（例：概ね満足 等）

##### 項目事項①

たいへん満足 52.9%満足 47.1%不満 0%無回答 0%回収数 100%

##### 項目事項②

たいへん満足 47.1%満足 52.9%不満 0%無回答 0%回収数 100%

##### 項目事項③

たいへん満足 44.2%満足 55.8%不満 0%無回答 0%回収数 100%

##### 項目事項④

たいへん満足 39.4%満足 60.6%不満 0%無回答 0%回収数 100%

##### 項目事項⑤

たいへん満足 35.6%満足 64.4%不満 0%無回答 0%回収数 100%

##### 項目事項⑥

たいへん満足 33.7%満足 66.3%不満 0%無回答 0%回収数 100%

##### 項目事項⑦

たいへん満足 32.7%満足 67.3%不満 0%無回答 0%回収数 100%

#### 3 意見等への主な対応状況

○ 利用者からの意見で対応したものを記載してください。

- ・職員内でヒヤリングを開催し、アンケート結果を基に話し合い、「あいさつ」や「言葉遣い」・「対応時の表情」について来館者を思いながら対応する事を徹底しました。



・仮予約システムについて、通常は3日以内に当センターへ来館の上、申請と利用料金の支払いとなるが、地方や遠方で期限までに申請できない団体や個人の方へ、申請期限日に再度連絡をいただく事で仮予約の延長を認めるなど、利用者にとって便利な方法を取りながら進めていました。特に遠方からの利用者は「とても助かる」「丁寧な対応で気持ちよく利用できた」などと満足していただきました。

## 5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。
- ・ 仮予約システムの導入は利用者にとって便利で有効なシステムで、広報や声掛け等の影響もあり、浸透してきており、仮予約は確実に増加しています。その為、出勤時、必ず、グーグルフォームとLINEのチェックを行い、開館してからの申込者の順番が正しく受付できるよう、スタッフ一同、心掛けています。
- ・ HP、SNS、中京いきいき通信の広報は、担当スタッフが随時、改善してくれていることで、見る人が増えたり、繋がったり、情報が正しく発信できるなど、良い結果が生まれています。変更していく中で、他のスタッフの意見交換をしながら、様々な視点の考えや思いを、広報の形に進化できており、今後も継続して行っていきます。
- ・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。
- ・ 事業やイベントを行う中で、より一層参加者や来場者の意見に耳を傾ける事で利用者が求めている思いを実現に近づけられると考え、今後も利用者への声掛けや、話しやすい環境づくりができるよう努めていきます。
- ・ 事業や取組みの中で、新しい団体や学校、市民団体と協働することで、発信の幅を広げていき、たくさんの方に利用価値を知ってもらえるよう努めていきます。
- ・ エレベーターは設置せれていない為、階段を利用できない方や団体については、利用できる会議室が制限されている状況が続いています。改善が早急に求められている中、設置が必要だと考えます。
- ・ 次年度に向けた対応にについて記載してください。
- ・ 施設運営を行う中で、日々スタッフ間での情報共有や、新しい事への取組みについて話し合う機会を増やし、運営だけではなく中京いきいき市民活動センターが進化し続けられるよう引き続き進めていきます。

## 6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項